

10月の活動予定

月	火	水	木	金
				1
4	5	6	7	8
	10～16時	閉	10～16時	
11	12	13	14	15
体育の日	10～16時	14時～ リスク勉強会 16～19時 提言する会	10～16時	
18	19	20	21	22
	10～16時	10～16時	閉	
25	26	27	28	29
	10～16時	10～16時	閉	

予定は変更になる可能性がありますのでご了承ください。

プロジェクトや「提言する会」の活動やニュースレター「しーきゅうぶ」に対するご意見ご要望をお聞かせください。



差出有効期間
平成17年3月
31日まで

郵便はがき

100-8787

(受取人)
東京都千代田区大手町1-6-1
財団法人電力中央研究所
社会経済研究所内
Cキューブ事務局
担当 土屋智子

ご意見・ご要望

よろしければお名前とご住所をご記入ください

C³プロジェクトでは、リスク情報の発信とコミュニケーションの場として事務局を設けています。ぜひお立ち寄りください。資料の貸し出しも行っています。

C³ (しーきゅうぶ) プロジェクトとは

プロジェクトの正式名称は、「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」といいます。平成14年度に経済産業省原子力安全・保安院が新設した提案公募型研究にリスクコミュニケーション分野の第1号として選ばれました。

東海村の皆さんといっしょにリスクを考え、行政や原子力事業者との対話や協働を実現するため、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」を設けています。現在のメンバーは16名。住民の視点で事業所の安全対策を確認・提言していく「視察プログラム」を中心に活動しています。

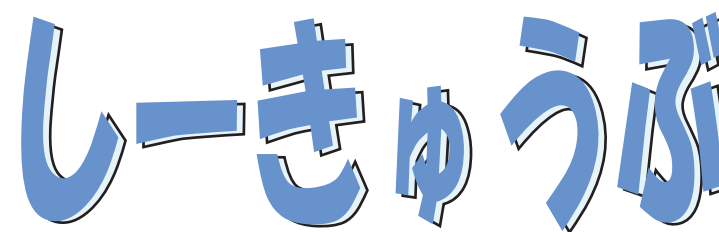
このニュースレターは、皆さんに広く活動を知っていただくために、作成・配布しているものです。役場やコミュニティセンターのほか、駅、合同庁舎、核燃料サイクル開発機構、日本原子力研究所、日本原子力発電株式会社の各見学・交流施設内に置いてあります。

つぶやき・C・C・C

今年は台風の当たり年ということで、「地域の会」との交流会も原子力防災訓練の視察も台風の後でした。じりじりと地球温暖化のリスクが高まっているようです。台風は止められませんが、温暖化をとめる方法はたくさんあります。エネルギーの無駄使いを反省する今日この頃です。(土屋智子)



原子力技術リスクC³プロジェクト事務局
〒319-1111 東海村舟石川821-52
東海村合同庁舎(1号館)2階
電話：029-287-1665
携帯：090-4674-0117
ホームページ：<http://tokaic3.fc2web.com>



2004年 10月 第14号

新しい活動のご紹介

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」では、昨年度から続けている事業所の視察に加え、今年度は他の地域との交流や原子力防災訓練の視察を行っています

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」との交流会を実施

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」は、2002年8月29日に発覚した東京電力の不正事件を契機に、2003年5月に発足しました。

事業者や安全運転に関わる行政当局からの十分な情報提供に基づいて発電所の安全状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的にしています。設立経緯には、「リスクコミュニケーションの実現」も謳われています。

双方の有志による交流会を新潟県柏崎市産業文化会館で7月21日夜、3時間にわたって行いました。(写真は交流会の様子)



翌7月22日には、柏崎刈羽原子力発電所7号機を見学しました。柏崎刈羽原子力発電所は、1ヶ所での発電量としては世界最大です。また、6・7号機は、最新鋭の改良型沸騰水型軽水炉でもあります。ちょうど6号機が定期検査中だったので、たくさんの作業者の人と行きかいました。6・7号機の中央制御室がひとつの大部屋になっているので、通常運転中と定期検査中の作業を見ることができました。

原子力防災訓練の体験と視察を実施(9月30日)

9月30日の原子力防災訓練には、多くの皆さんが参加されました。「提言する会」でも、防災訓練を体験し、その結果を踏まえて視察レポートを作成し、村に提出する予定です。住民が望む訓練のあり方について提案したいと考えています。

(詳しくは次号でお伝えします。)



事務局は、財団法人柏崎原子力広報センターで、電源地域の広報安全交付金を活用しています。委員による運営委員会と広報委員会が中心となって、会の運営や情報提供活動が行われています。

原子力安全に関わるさまざまな問題が約3時間にわたって議論されました。

＜共通点＞

＜相違点＞

＜今後に向けて＞

A black and white photograph showing a group of approximately 15 people seated around a large, dark-colored rectangular table in a meeting room. The participants, a mix of men and women, are dressed in business casual attire. They are all looking towards the center of the table, suggesting an active discussion or presentation. The table is set with various items including water bottles, papers, and small containers. The room features large windows in the background, some with blinds, and is illuminated by bright, rectangular fluorescent light fixtures on the ceiling. The overall atmosphere appears professional and collaborative.

リスク勉強会の資料から

人は、「期待をもって将来のことを考える（予想する）」と、予想とおりにならなかった場合、不意をつかれたように感じて「不測の事態」だと感じる。つまり、「予想する」からこそ、「不測の事態」が生まれる

↓
想し

↓
つく

↓
想がい

↓
気にしな

一気に問題が表面化すると、「不測の事態だ」と叫ぶ！

危険防止策の氾濫の責任は私たち消費者にもあります。商品やサービスの安全を確保する責任をすべて企業や行政に負わせてきたのです。消費者からの非難や訴訟を避けるため、企業や行政はむやみと警告文を表示し、安全対策をはりめぐらせています。確かに、技術・新商品の安全性や健康、環境への危険性の評価は、これまでどおり企業や専門家、行政が行うべきでしょう。しかし、リスクの管理を企業や行政にゆだねたことが、私たちの責任感を薄れさせてしまっています。あらゆるところで安全対策がとられているので、私たちは何が危険かを考えることさえ、忘れてしまいかねません。「表示などの危険防止策がない」ことを「安全あるいは危険がない」と単純に考えるようになってはいないでしょうか。

